

●□全体の説明

- ・祭司長、パリサイ人たちは総督ピラトに要請(厳重な墓の番)
- ・明け方に墓を見に来た女たち
- ・御使いが現れ、大きな地震が起こる
  - ・番兵たちは恐ろしさのあまり死人のようになって動けなくなった
  - ・御使いは女たちに語りかけられる
- ・女たちは弟子たちのところへ知らせに走る
- ・イエス様が女たちに出会い、語りかけられる
  - ・女たちはイエス様を礼拝する

●□本論

1. 主はご自身の御業、ご計画を完全に成し遂げられる。

どんな人間の策略も、大きな墓石も、厳重な 24 時間体制の完全な番兵の監視も、むなしく、何の役にも立たなかった。主の復活を妨げることはできなかった。それどころか、一見そういう主の御業を妨げるかのようなものが、逆に、主の復活が本当だったと確証するものになった。本当に主はすばらしいお方である。万事を益と成すことのできるお方である。

私たちの置かれているこの地上では、人間の思い、罪、肉の思い、悪魔の策略、様々なものが絡み合い、一体何が本当なのか、何が真実なのか、神様の御心は何なのか、わからなくなることがある。神様はどこに行ってしまったのだろうか、神様は私たちを見捨ててしまわれたのだろうか、一体自分たちはこれからどこに向かって行くのだろうか、どうなっていくのだろうか、そういう中で、右往左往することがある。しかし、私たちがどうであろうと、何をしよう、主は変わることなく、完全にご自身の御業を成し遂げられる。

2. 主は私たちに会って下さり直接お語り下さる。

女たちが弟子たちに復活の主を伝えるためには、直接、復活の主に出会う必要があった。

弟子たちは、復活の主に直接出会い、自分の目で見、手で触れたからこそ、命がけでイエス様を証しする者に変えられた。彼らにとって三年半、イエス様と寝食を共にし、その御業を見、教えを受けたことはとても大きなことであった。しかし、それ以上に彼らにとって必要だったことは、復活されたイエス様に直接会うことだった。イエス様が十字架にかけられ、死なれたとき、弟子たちは失望落胆し、不安と恐れの中で、家の中に閉じこもってしまっていた。どうすることもできない、これから一体どうしたらよいのか、そういう状態だった彼らが変わられ、文字通り命がけでイエス様を証しする者とされたのは、復活の主に出会ったからである。

主は弟子たち一人一人に出会って下さったように、私たちにも出会って下さり、直接、聖書を通してお語り下さる。主は日々、新しく私たちに会い、語りかけて下さる。主との交わりの中で私たちは励まされ、力を受け、主を証しする者とされる。

●□結論

私たちは十字架につけられたイエス様ではなく、十字架につけられ、三日目によみがえられたイエス様を信じている。イエス様は死と悪魔と罪に打ち勝ってよみがえられた。イエス様は眠っているものの初穂としてよみがえられた。よみがえられたイエス様を信じる私たちは、やがて終わりのラッパとともに復活のからだ、永遠に朽ちることのない栄光のからだを受けて、天の御国に入ることができる。私たちの信仰は復活信仰である。私たちはたとえ死んでも、よみがえることができるのである。私たちの真の希望は復活である。途上では、罪との戦い、自我との戦い、悪魔との戦い、また病との戦い、それぞれに様々な悩みや苦しみがああり、その中で全く敗北しているかのようなところを通らされることがあるか

もしれない。しかし、私たちを愛し、私たちのために十字架にかかり、三日目によみがえられたイエス様によって、最終的には私たちは圧倒的な勝利者となる。私たちクリスチャンは最後には必ず勝利することができる、どんな中にあってもこのイエス様にある勝利をしっかりと握り、復活の希望をもって歩むことができるのである。(Iコリント 15:50-58)